

中西美沙子 [教育コーディネーター]



大丈夫よ! お母さん!

「子育ての時」と「自分の時」をたのしんで

子育てをしながら、「自分の時」を楽しむことができたなら素晴らしいですね。それは我が子への思いがどんな風にあるか、知るチャンスでもあるからです。

この頃、「母子密着」から起こる問題がよく話題にあがります。「親離れ」「子離れ」ができない親子の原因に「母子密着」があるのでしょう。幼児の頃は、限りなく慈しみ、「安心」という栄養を与えるのがいいですね。その「安心」が育ってこそ、自立する力が生まれるからです。慈しみは「溺愛」ではありません。

「溺愛」は、色々な形で表れます。「欲しがれる物は何でも与える」「子どものしたいようにする」「子どもを自分の思いどおりにする」。このような接し方は、もしかしたら「愛情」がどのようなものか、親自身にも見えないからかも知れません。

自分の子どもを、「冷静」な目で見ることは難しいことです。でも、本来の愛情は、子どもにとって何が一番大切かを「冷静」に判断するところに生まれるのでは。子どもへの過度な思いをやめ、子育てと自分の楽しみとの両立を試みませんか。

私の知っているある読書会グループ。子育て中の若いお母さんや、子育ての終わったお母さん方が、ともに世界の童話を読むグループです。中には幼児をつれての参加も。好きな童話を通して、人の生き方や感じ方を手に入れることは、自然な感覚で自分の子育てを見つめることにもなります。子どもへの目線の近さを知る、そ

れは子育ての大切なキーワードです。溺愛ではなく、「これでいい」という子育てに対する冷静な判断がとれることは、心に穏やかさを生みます。子育て



中西美沙子プロフィール

教育コーディネーター。執筆・講演活動の傍ら、文章教室「スコアレ」・画廊「キューブ・ブルー」(浜松市中区元城町)を主宰。文章教室「スコアレ」では、小学生から大人まで幅広い層を対象に、ただ書き方を教えるのではなく、「この時代をどのように生きるか」を見つめさせるような試みをしています。お問い合わせは、TEL.053-456-3770

ホームページは



著書の「ピアニシモでね」(東京書籍)は、中日新聞に連載した人気コラム「つかまえて!こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。(税込1,500円)

＝お求めは浜松市内の谷島屋で＝

での不安は、どこにでも、あります。それは、誰かと繋がりたいのに孤立してしまう状況が、現代には多くあるからでしょう。その不安を一人だけのものにしなことが肝心です。

不安を抱えて子育てに奮闘してい

るお母さんたちに、諦めずに「同士」を探すことを勧めます。以前テレビで、子どもの洋服作りをする子育て中のお母さんグループの活動を見ました。

子どもにとってどんな衣類が良いか、お母さん方のそれぞれの体験を集めてデザインし、作り、販売するグループです。我が子を自分だけのものとしなくて、他人の子どもと同じ地平で見える視線がそこにはありました。「協調」する活動の中で、我が子への思いを厚くしている姿に好感を持ちました。

もしかしたら、近くにもこのような方々がおられるのかも知れません。もし、そんな場がなかったとしたら、自分一人でも楽しむ時を作ることができます。好きなことを丁寧に探し、許された時間の中で楽しむことです。それは難しいことはありません。お菓子作りや読書、絵を描くことなど、いくらでもありますね。

私は文章教室を主宰しています。その中のお一人が、「ポーランドのパン」を焼いて持ってきてくださる。その方は音楽家です。ポーランドと日本を行ったり来たりするうちに、おいしいポーランドのパンのイースト菌を持ち帰り、以来、自分で焼いているのです。見た目には素朴なパンの、何と奥の深い味。その味わいを生んだのは、子育てを楽しみながら「自分の時」を大切にしている心だと、感じるのです。彼女は三人の元気な子どものお母さんでもあります。